

美祿社会復帰促進センター 「再誕の丘」だより

「再誕の丘」とは

平成16年12月15日に、南野知恵子法務大臣(当時)が、美祿テクノパークを視察されました。

その折、かつて立ち並んでいた炭坑住宅が、美祿社会復帰促進センターに生まれ変わることになり、「この施設で受刑者が社会復帰するために生まれ変わる」ことを心から願ってこの丘を「再誕の丘」と命名されたものです。



美祿社会復帰促進センター長 年頭御挨拶

センター長 ニノ宮 潮

明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は当センターの運営に温かいご理解と多大なるご支援を賜り誠にありがとうございました。

昨年、当センターは公共サービス改革法に基づく第2期事業へ移行し、美祿市と緊密に連携しつつ、職業訓練や改善指導を拡充して実施してまいりました。そして、複数の企業からセンター生の出所後の就労に対する温かいご支援をいただいたことによって円滑な社会復帰を支援することができました。直近の当センターにおける出所後2年以内の刑務所再入所率は、男性が0.8パーセント、女性が1.5パーセントと極めて低くなっています。

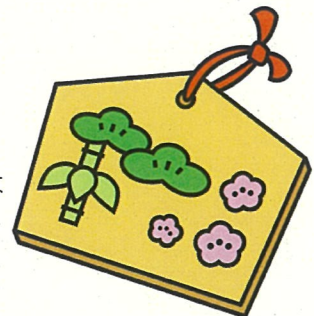
また、センター生が社会貢献作業として作ったフラワーアレンジメントを大嶺中学校と豊田前小学校へプレゼントし、山口大学教育学部と法政大学キャリアデザイン学部の学生が生徒の皆さんとセンター生にインタビューを行い、それぞれが抱いた気持ちを共有することを通じて、共生社会の実現に向けた意識の高揚にも寄与することができました。

そして、「社会を明るくする運動」山口県作文コンテスト最優秀賞受賞作品を読んだことによって多くのセンター生が勇気づけられ、更生意欲を高めることができました。

当センターは社会と共にあります。社会の要請を受けて存在し、常に本と末の関係にあります。

更生を信じる力で、もっと安全で豊かな社会を
罪と向き合い、社会とつながる場所

法務省矯正局が昨年公表した矯正職員のミッションとビジョンを実現するため、今年も当センターは矯正のフロントランナーとして社会のお役に立てるよう精一杯努力してまいります。どうか引き続きよろしく願い申し上げます。



目次:

センター長年頭御挨拶 1

総括業務責任者年頭御挨拶 2

対話型施設参観 3

豊田前 愛のまごころ 矯正展 4

総括業務責任者 年頭御挨拶

株式会社小学館集英社プロダクション
総括業務責任者 勝田 浩章



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、地域の皆様におかれましては、当センターの運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、新たな年が皆様にとって、安寧な年となりますように祈念申し上げます。また、本年も引き続き、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、美祢センターは官民のみならず、センターを支えていただいている地域の皆様も含めて大転換期の1年であったと思います。ご存じの通り2007年から始まった第1期PFI事業はその大きな役割を終え、昨年2025年からは第2期公サ法事業として新体制のもとで施設があらたな歩みを始めました。民間事業者の立場として述べさせていただくならば、第2期事業はこれまでの第1期事業とは若干様相が異なり、民間としてお任せいただく業務やその役割範囲は極めて限定的で、民間職員の数も大幅に減りました。しかしながら、これまで地域の皆様と【社会復帰促進センター】が育んできた関係性や存在意義が失われるものでは決してありません。また、第2期事業では新たに3つのミッション（下記参照）をいただいておりますので、官民が協力してミッションをクリアすることで、なお一層地域に根ざした施設運営を心がけていきたいと思っています。前事業の功績と課せられた使命【官民協働】【人材の再生】【地域との共生】を引継ぎ、本年も官民職員はもとより地域の皆様のご理解とご支援をいただきながら、官民協働施設として様々なことに取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



～『創意工夫の発揮可能性』～ ※令和6年3月 民間競争入札実施要項より一部抜粋

①法改正に伴う新たな課題の解決に資する提案

従来の懲役刑と禁錮刑に代わり拘禁刑が創設されたことへの対応や、センター生の社会復帰支援の更なる実施など、法改正に伴う新たな課題の解決に資する提案を行うこと。

②地域との共生に関する提案

再犯防止と地方創生の双方に資する取組に係る提案、地域住民や多様なプレイヤーに関われ、多様な個人や組織が対象施設に集まり、対話・交流が促進され、愛着を持って利用される施設とするための提案を行うこと。また、本事業を通じて各主体がネットワーク化されるなど、地域共生に結び付く工夫についても提案を求める。

③刑事施設に求められる新たな役割に関する提案

時制やその時々の社会的要請の変化に応じ、刑事施設に求められる役割の変化に柔軟に対応できるよう、これまでにない新たな発想をもって、全国の刑事施設の先頭に立つ運営を実現するための先進的な取組に係る提案を行うこと。

対話型施設参観報告

令和7年9月19日(金) ～美祿社会復帰促進センター～



美祿社会復帰促進センター

【対話型参観の趣旨】

昨年6月から開始された拘禁刑の円滑な施行や組織風土改革等の様々な取り組みを進める上で、刑務所や少年院等の矯正施設の職員は、自らの職務と社会的な役割を認識するとともに、国民の理解を得ていくことが必要である。これらのことを実現するため、美祿市及び近郊住民等を対象に同参観を開催する。

【目的】

参観者：矯正施設の現状や課題を知るとともに、より身近に矯正施設や職員のことを感じていただくこと。

職員：自らの職務に対する理解を深めるとともに、その社会的意義を再認識すること。

【特別な参観内容】

- ・センター生と同じ昼食を喫食
- ・SST（社会生活技能訓練）見学
- ・センター生による作業製品説明等
- ・訓練室担当職員による作業内容説明等
- ・施設内移動で護送車を使用



対話型意見交換状況



センター生による作業製品説明等

【参観者の意見等】

- ・センター生と接して話を聞いたり、職員の方と話し合うなど、刑務所の理解が深まりました。
- ・漠然としか分からなかった施設の中・内容がよくわかり、とても内容の濃い一日となりました。
- ・職員の方の一生懸命さがとてもよく伝わりました。
- ・受刑者の方の環境について理解し、周りにも広めていきたいです。

「矯正」から「共生」へ

「矯正」⇒本来あるべき正常な状態からずれている物事を、力を加えて正しい状態に戻すこと。

「共生」⇒多様な背景を持つ人々が互いを認め合い、支えながら共に生きること。

センター生の改善更生に向け、美祿センターでは「共生」を目指して、職員一丸となって取り組んでまいります。

2025年度 豊田前 愛のまごころ 矯正展開催



令和7年11月30日(日)、「豊田前愛のまごころ矯正展」が、開催されました。当センターの矯正展では、近隣地域の各団体から様々な面でご支援をいただいておりますが、この度の開催においても、美祢市長をはじめ、美祢地区更生保護女性会・美祢社会復帰促進センター地域共生のまちづくり推進協議会からたくさんの御助力をいただきました。

お陰様で当日は1,800人を超える、大勢の方にご来場をいただきました。

成進高等学校吹奏楽部の力強いファンファーレでテープカットが行われました。メインとなるステージイベントでは、豊田前保育園の園児の皆さん・豊田前小学校の児童の皆さん・カルスト草炎太鼓の皆様をはじめ、多数の団体にご参加いただき、素敵なパフォーマンスを披露していただきました。

600円で販売した食事体験のチケットは、開場約15分後には完売するという大盛況で、ご参加いただいた皆様からも、温かいお褒めの言葉をたくさんいただきました。

美祢マーケットにおいては、午前11時と午後1時半の2回にわたってパンの販売を実施いたしましたが、開店前から非常にたくさんの方々に並んでお待ちいただき、あっという間に完売いたしました。

地域の皆様をはじめとする多くの方々のご来場により、大盛況の内に終わった今年度の矯正展でした。

来年はもっと多くの方々にご来場いただくことができるよう、センター職員一同、より充実した内容の矯正展を目指して参りますので、今後ともご愛顧のほど宜しくお願いいたします。



国民に理解され、支えられる刑務所へ

編集・発行

美祢社会復帰促進センター

<http://www.mine-center.go.jp/>

お問い合わせ先

〒750-0693

山口県美祢市豊田前町麻生下10番地

TEL: 0837 (57) 5131

FAX: 0837 (57) 5161